

2021/07 ver.03

受験生の皆さん、 その保護者の皆様へ



© Copyright 株式会社 梨香台ゼミナール all right reserved

■はじめに…

高校入試が約半年後に迫り、塾生の皆さんはもちろん、保護者の皆様も色々と不安だと存じます。また、去年度からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各学校行事も延期や中止を余儀なくされ、窮屈なマスク生活や、慣れない環境に、精神的にも追い詰められ、悩み、ストレスを抱えている方も少なくないと思います。

しかし、このような渦中でも、皆さんが高校受験に臨む、人生においても大切なこの時期を過ごす環境として、梨香台ゼミナールを選んで下さったことに報いるため、我々は全力で塾生の皆さん、そして保護者の皆様の力となります。

高校入試は良く山登りに例えられます。

目的地は必ずしも頂上で無くても良いのです。

人によっては八合目が目的地、五合目が目的地の人もいるでしょう。

登る速度がとても速い人もいれば、一步一步踏みしめるようにゆっくりとしか、登れない人もいるでしょう。

でも、確実にその目的地に向け、山を登り続けなくてはなりません。

途中で足が痛くなります。息も上がります。疲れて休みたくもなります。大雨や突風が吹いてくるかも知れません。

しかし、それを耐え、乗り越えて、登り続けることが出来たなら、目的地にたどり着けるはずです。

そして、そこには、きっと今まで見たことのないような素晴らしい景色が広がっています。

我々梨香台ゼミナールの全講師は山に登る皆さんの「シェルパ」（登山ガイド）です。

一緒に登ります。時には手を引きます。後ろから背中も押します。分かれ道に出会ったなら、目的地の方角を指さし、導きます。

我々は30年以上ものシェルパの経験があります。

任せて下さい！大丈夫です！目的地までご案内します！

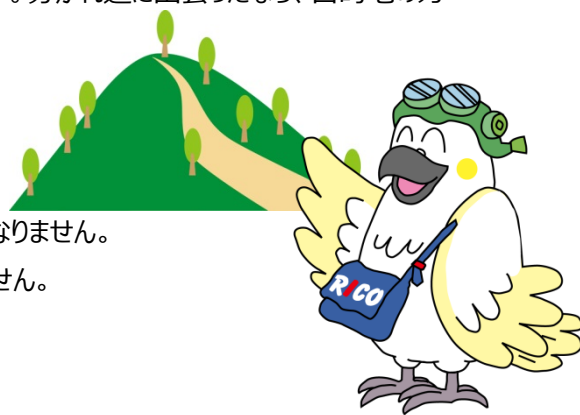
それでも、当然ですが、皆さんの「自分の足」で登らなくてはなりません。

皆さんを背負ったり、籠(かご)に乗せたりして運ぶことは出来ません。

皆さんは既にその山を登り始めています。

そして、残された時間は限られています。

我々と一緒に、高校受験という山を登り、志望校という目的地に到達しましょう！



■ 学校説明会について

少しでも気になる学校の説明会は是が非でも参加したい！と考えるでしょうが、『何でもかんでも参加した方が良い！』…というものではありません。

- ・現在の第一、第二志望校候補
- ・併願候補の私立高校

この2点に当てはまるのなら、参加する価値はあります。

実際に訪問して、何となく…という気持ちが、確固たる志望校となり、『絶対入学するんだ！』という、高いモチベーションを継続して、飛躍的に学力が伸びることがあるからです。

しかし、次のようなケースでの参加は無駄な時間を費やすだけの場合があるので注意して下さい。

- ・親しい友達から誘われた
- ・あまり入学する気は無いけど、何となく

こういった理由ならば、**わざわざ貴重な授業を休んでまで、行く必要はありません**。時間の無駄です。

特に、現在の自分の学力（偏差値）よりも下の学校は明確な理由（例えばやりたい部活動がとても盛んななど）が無ければ、行く必要はありません。

更に、知っておいて頂きたいのですが…

志望校を決定する際、その候補校の真実の姿を見極めたいのなら、説明会ではなく、夏休み明け後の**二学期が始まってから見学に行くべき**です。

イベントとしての説明会では、高校側は一人でも多くの受験生が欲しいため、事前に周到な準備をして、皆さんには「**良い部分しか見せない**」のです。

実際の在校生にもほとんど会えませんし、会えても、学校側が説明会に同席する在校生を選び、『受験生が来るから服装を整え、明るく、礼儀正しく振る舞うように』と先生から指示されていることが多いのです。つまり、「よそ行き」の学校の姿を見せられるわけです。

「普段着」の学校が見たいのなら、通常の授業や部活が行われている、「普段」に行った方が良く分かるのです。

『普段学校見学に言っても良いの？』と思われるかも知れません。でも、大丈夫です！

公立、私立に限らず、ほとんどの学校が、夏休み明けの通常授業が始まって、事前予約など無しで見学を受け入れてくれます。行きたい日時を決めて、梨ゼミの講師に相談してくれるれば、見学できるように、該当学校に連絡を入れ、調整いたします。

以上、イベントとしての説明会参加は2校前後、二学期が始まってからの見学も2校前後、**合計3～5校程度が適当**でしょう。

なお、学校見学の際は、必ず制服を正しく着用して、訪問して下さい。また、礼儀正しく振る舞い、大声を出してはしゃいだりしないようにしましょう。**チェックされている場合があります**。

■ 志望校決定に際して

現在、既にはっきりと志望校を決定している塾生もいるでしょう。まだ、漠然と、何となくあそこかな…と考えている塾生もいるでしょう。

梨香台ゼミナールでは秋の三者面談で、30年以上の進路指導の経験を活かし、その時点での志望校選出への適切なアドバイスをいたします。今、あれこれ思い悩む必要はありません。

この時点での志望校を選択するとき、特に留意すべき点があります。

それは、その時点での自分の偏差値に適合した高校を選んではいけないということです。

例えば、現時点で偏差値 55 の塾生がいたとします。

その塾生は偏差値 54 の A 校ではなく、偏差値 59 の B 校を選んで頂きたいのです。

人間は本来、楽をしたがる動物です。これは本能と言っても良いでしょう。

ですから人間は、「楽」をするために、その何万年もの長い歴史の中、様々なものを発見、発明してきました。

原始時代、夜寝ている間でも楽をして（交代で火を絶やさないようにする必要はありましたが）外敵から身を守るための「火」、移動しなくて楽に食べものを手に入れるための「耕作」、より速く楽に移動するための「鉄道」や「自動車」、大量な情報を楽に管理するための「コンピューター」等々…

話を戻します。

この楽をしたがることは、皆さんも例外ではありません。

この「本能」は先程の発見、発明など良い方に作用することもあるのですが、高校受験の志望校選択では悪い方に作用することが多いのです。

『今の偏差値で行ける A 校にしよう…』と思う＝『もうあまり勉強しなくても大丈夫…』となってしまうがちなのです。こうなると、どうなるか…

辛い努力はしなくなり、一方で周りの同じくらいの偏差値のライバルはコツコツと努力を積み重ね、その結果、相対的にどんどん成績（偏差値）は下がり続け、受験直前では A 校すら無理！となってしまうのです。

『こんなはずじゃなかった…』とその時思っても、もう時間は戻って来ません。

このような観点から、皆さんにお勧めするのは、秋の志望校選定時には**現在の自分の偏差値よりも少し上**、具体的には**5 前後上の高校を選ぶ**ことです。

そうすれば、『もっともっと頑張らないと…』と考え、その目標に向かって努力を継続出来やすいからです。

秋の（11 月が多いと思います）所属中学校での先生との面談で、『B 校は絶対に無理！』と言われてしまうかも知れません。でも、そんなこと、少しも気にする必要はありません。

『B 校合格に向けて全力で努力します！』と宣言すれば良いのです。その決意、勇気を止める権利は誰にも、もちろん学校の先生にもありません。

そして、私たちは今まで、学校の先生から『その高校は絶対に無理！』と言われてしまった塾生を事実、何人も何人もその高校に合格させています。

安心して我々、学友と一緒に、努力を継続して下さい。

■ 併願推薦校決定に際して

先日実施した高校入試説明会でもお話ししたように、公立校第一志望の場合は必ず併願推薦校を持った状態で受験する必要があります。

併願校とは言っても、(残念ですが) 通う可能性のある高校ですので、少しでも上位高校の併願推薦を獲得するべきです。

併願校の推薦基準の多くは、学校の成績表(通知票)の評価で決まりますが、多くの場合は二学期の通知票が採択されます。

当然ですが、『出来るだけ最新の受験生の成績』を高校側が欲しがるからです。

これは、保護者様に是非お願いしたいのですが…

一学期の段階で、2～3程度、推薦基準に足りない高校…例えばC校でも、中学校側との保護者面談時に、『C校の併願推薦を頂きたい』とハッキリと担当の先生に伝えて頂きたいのです。

先生も人間ですから、普段、その子だけを注意深く観察しているわけではありません。もちろん、定期テストの成績などは数字で表れますが、普段の授業態度や宿題の提出状況など、ひとりひとり完璧に把握している先生はほとんどいません。

しかし、面談で保護者にそう言われると、その子を注意深く観察するようになります。

通知票は絶対評価です。その子が、その子なりに非常に努力を継続していると観られた場合、例えば今まで3だった教科が4に上がることは良くあることなのです。その教科が3個あれば、評定の合計は3上がるのです。

そのためには、塾生ご本人が授業を集中して受け、積極的な態度を見せ、宿題も確実に実行しなくてはならないことは言うまでもありません。

■ 併願推薦が決まっても…

公立第一志望で私立の併願推薦校の合格が決定した途端に安心し、息を抜いてしまう塾生が毎年のように存在します。一旦息を抜いてしまうと、本命である公立第一志望校の合格が遠のいてしまいます。

あなたが息を抜いて休んでいるその間も、歯を食いしばって頑張り続けているライバルが存在する事実を忘れてはいけません。言うまでもありませんが、あなたのライバルはあなたの中学校の生徒だけではないのです。千葉県中の中学三年生全員がライバルなのです。

そうやって、必死に努力を積み重ねているライバルに、今のあなたで勝てるのですか？

■ 私立校単願受験などで早々に合格が決まった皆さんへ

私立校単願推薦の合格発表は公立校よりも早く、年明けの1月中に発表されます。公立校第一志望の学友より、ずっと早く桜が咲くこととなります。追い詰められていた精神状態も解放され、ホッと一息ですね。

でも、絶対に忘れてはいけません。

あなたたちの**最終目標は高校に入学することではない**はずです。**高校が決まればそれで終わりではない**はずです。

高校入学後も、すぐ定期テストがあり、成績順位が出て、程なく将来の進路をある程度決めて、大学受験… **すぐにまた競争が始まる**のです。

それなのに、1月から入学式の4月までの、2、3ヶ月もの長い間、ホッと一息が連日のずっと一息になってしまったらどうなるか…。

4月の入学式から私立校に入ってくる同級生は、あなたと同じ単願推薦入学とは限りません。

いや、むしろ、単願推薦入学者の方が少なく、多くは公立校第一志望で、3月まで辛い受験勉強を継続し、それでも涙をのんで、あなたの私立校に入ってくる、そんな同級生が沢山いることになるのです。

4月からそういった同級生と席を並べての学習が、競争が始まるのです。

あなたが開放感に浸って、『受験が終わったー！』とダラダラとスマホ三昧で毎日過ごしているその時に、近い将来の同級生は苦しみながら学習を続けているんですよ。もうお分かりの**はず**です。

これは、営業で申し上げているのでは決してございません。

事実、懇意にさせて頂いている複数の私立高校の先生からも、こうお願いされています。

『毎年のように、単願推薦で入学してきた生徒の成績低迷が問題になっています。推薦を受けた時点では立派な成績を獲得していたのに…。梨香台ゼミナールさんの塾生さんには、本校入学直前まで学習を続けるようご指導をお願いします。』

私立校単願推薦などで早々に合格が決まったとしても、高校入学後のスタートでつまづかないよう、最初から安定した成績を獲得できるよう、そして、将来の大学受験につなげていけるよう、少なくとも**2月末の梨ゼミ卒業まで、公立第一志望の学友と一緒に学習努力を継続**して下さい。

■ 公立志望校決定に際して

秋に決めた「少し偏差値が上の高校」である志望校をどうするか、決定しなくてはなりません。

努力を積み重ね、直近の学力テストで見事合格ライン以上に到達した塾生は、自信を持ってその高校を受験して下さい。

合格偏差値に5以上足りない塾生は、残念ですが、志望校の再考が必要です。

我々が毎年のように悩むのはギリギリ合格ラインとほんの少し足りないラインに塾生がいるケースです。

このケースでは、基本的に我々は、**諸事情などで極力公立高校に行かせたい…と保護様がお考えの場合は、志望校のランクを下げる**ようにお勧めします。

下げるくらいなら併願推薦を獲得している私立校へ…とお考えでしたら、そのままチャレンジされることをお勧めします。いずれにせよ、最終決定に至るまで、ご本人、そして保護様と密に連携を取りながら、的確なアドバイスをさせていただきます。

■最後に…

本文中にもお話ししましたが、受験勉強は辛いものです。苦しいものです。

我々には痛いほど、それが分かります。我々個々もそれを経験していますし、30年以上もの間、そういった受験生に寄り添って観てきているからです。

例えば夜中、自分の部屋で独り、勉強をしていると、不安な気持ちがこみ上げてくることがあります。

『春にはどの学校の制服を着ているんだろう…』『落ちたらどうしよう…』『この過去問が分からない…』等々……

でも、あなたは独りではありません。梨ゼミの学友、そして、我々講師がいます。

我々はあなたの味方です。あなたのパートナーです。シェルパです。

一緒に山を登り続けてきた仲間です。

そんなときには深夜でも構いませんし、学習の質問でなければ、話しやすい先生で構いませんので、遠慮なく我々に電話して下さい。

・英語担当 内山 **070-3629-5083**

・数学/理科担当 岡田 **070-3629-5082**

・国語/社会担当 藤田 **070-3629-5084**

* 番号を通知してお掛け下さい。非通知では応答できません。非通知設定されている電話からは最初に「186」を付けてから、上記番号に電話して下さい。

最後の最後に…

私、梨香台ゼミナル代表の土屋は、平成元年の開塾当時から、ずっと持っているモットーがあり、それは現在の講師にも受け継がれています。

そのモットーとは、『授業で泣かせることがあっても、受験では泣かせない』です。

梨香台ゼミナルの講師は全員、本当の優しさを持っている人であると確信しています。

時には心を鬼にして、怒ることもあります。でも、それは、皆さんの将来、未来を心配し、思いやつてのことなのです。本気で教えているから、努力を怠っていると判断したときには、本気で接するのです。

皆さんが合格発表で自分の番号を見つけて、少し落ち着いた頃、私たちの真意が理解出来ると思います。

さあ、梨香台ゼミナル塾生の皆さん、保護者の皆様、少々険しい山ではありますが、私たちと一緒に目的地まで登り続けましょう！

梨香台ゼミナル 代表 土屋 祐二